

平成 2 5 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会 がん政策部会

日 時 : 平成 2 6 年 2 月 6 日 (木) 1 8 : 0 0 ~ 2 0 : 1 0

場 所 : 琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構成員 : 1 1 名

出席者 : 1 1 名

天野 慎介 (一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン)、埴岡 健一 (特定非営利活動法人日本医療政策機構)、東 尚弘 (国立がん研究センターがん対策情報センター)、井岡 亜希子 (地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立成人病センター)、笹良 剛史 (友愛会南部病院、緩和ケア部会長)、宮国 孝男 (那覇市立病院、研修部会長)、樋口 美智子 (那覇市立病院、相談支援部会長)、佐村 博範 (琉球大学医学部附属病院、地域ネットワーク部会長)、長井 裕 (琉球大学医学部附属病院、普及啓発部会長)、増田 昌人 (琉球大学医学部附属病院)、仲本 奈々 (琉球大学医学部附属病院 がん登録副部会長)

陪席者 : 呉屋 葉子 (琉球大学医学部附属病院)

[報告事項]**1. 平成 2 5 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会がん政策部会議事要旨**

増田委員より、平成 2 5 年度第 2 回沖縄県がん診療連携協議会がん政策部会議事要旨について報告があった。

[協議事項]**1. 各部会 平成 2 6 年度事業計画について**

埴岡委員より、東委員が作成している国の指標案評価シートを参考に、まだ決定していない沖縄の指標を作成してはどうかと提案があり、リソース出来るものに関しては利用することとなった。

長井委員より、普及啓発部会の平成 2 6 年度事業計画について説明があった。滞っている項目は、対策項目 4 「職場への理解：企業での検診の義務化強化」①県内企業 100 社への検診受診率アンケート調査を実施する。が進んでいないこと、教育に関するところは年によってスムーズに行える年と行えない年があることが報告された。

増田委員より、社会分野の 7、8、9、10、12、13 で参考にできるものは活用してはどうかと意見があった。

長井委員より、国の指標はどれもいい候補であり、比較するために指標を一回立てて、時間を空けてもう一度同じことを繰り返してみると意見があった。

埴岡委員より、施策について優先付けを行ってはどうかと意見があった。

佐村委員より、地域ネットワーク部会の平成 2 6 年度事業計画について説明があった。

天野部会長より、達成しているものおよび達成が困難なものを教えて欲しいと意見があり、施策 7 「肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんの地域連携パスの簡素化の改訂を行い、

適用数を増やす」は中間まで達成していること、施策5「胃がんと大腸がんの化学療法パスを作成する」を取りかかっている途中であること、滞っているものについては、施策2「がん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する」は、行き詰まっているので、方法論を検討していることが報告された。

埴岡委員より、各部会の事業計画において、国がんの方法論を準用して、施策目標との関連性と問題の大きさについて、優先順位づけをしてはどうかと提案があった。

宮国委員より、研修部会の平成26年度事業計画について説明があった。

施策1「医師向けに早期診断のための研修会を開催する」は参加者が増えていないため対象者を広げることや広報活動の強化を検討していること、「放射線および化学療法に関する研修会について」は各論に踏み込んだ内容にすること、県の医師会で研修部会の活動を報告することを検討していることが報告された。

天野委員より、目標とアウトカムに差が生じているような気がするので、このままの研修部会でいくか、拡げて医療従事者の育成チーム医療の推進部会にするか、次回の部会で検討してはどうかと提案があった。

佐村委員より、国の指標にこだわらずに、踏み込んだ研修会だけではなく基礎的な研修会を行うなど、がん診療に携わっている人に対する情報の提供ということで、少し方向が違っていてもいいのではないかと意見があった。

方向性については、次回の部会で検討することとなった。

樋口委員より、相談支援部会の平成26年度事業計画について説明があった。

滞っているのは、施策4「患者家族満足度調査」で、ベースになる対象・数値がないので、指標の作成や対象アンケートところを今年度部分的に行って、来年度は対象を拡大していくことを予定していると報告があった。

埴岡委員より、患者満足度調査をする場合、2つ目的があって、政策評価のための患者調査なのか、患者の受けている医療とかQOLに関する患者意識調査なのか方針を決めてはどうかと意見があった。

樋口委員より、部会で行う調査としては、がんサポートを知っているか、どういう相談をしたかなど絞ったものにして、対象は人間ドックや検診センター受診者にパイロットをする予定であるとのことだった。

天野部会長より、全体的の政策に関する満足度調査はどういった交通整理なるのかと質問があり、埴岡委員より、大小の調査は両方必要で、患者調査は治療を受けている人に特化して、まずは拠点病院で調査を行い、がん治療病院、診療所に広げてはどうかと意見があった。

増田委員より、がん登録部会の平成26年度事業計画について説明があった。

問題点としては、地域がん登録の情報が行きわたっていないこと、院内がん登録をしている施設が増えないことが挙げられた。

井岡委員より、地域がん登録の目的としては、罹患数と生存率の把握であり、県民が望むのは生存率だと思うので、県全体の生存確認をする議論は行ったほうがいい。忘れないように書

き留めておいたほうが良いこと、生族率把握に住基ネット利用してはどうかと意見があった。
樋口委員より、那覇市立病院は、新聞の死亡広告を活用しているとのことだった。

増田委員より、緩和ケア部会の平成26年度事業計画について説明があった。

天野委員より、的場班ではスクリーニングを徹底的に行っているみたいだが、そういった施策はあるのかと質問があり、増田委員より、施策3に『除痛率の確立をはかる』とあり、現在、除痛率は月一病棟で算定はしているがフィードバックはしていないので、今年度中にリニューアルした除痛率と全患者スクリーニングを始める予定であり、2月には的場先生を招いて病棟ごとに勉強会を行うことが報告された。

東委員より、除痛率にはフィードバックが大事であると意見があり、埴岡委員より、緩和ケア部会がカバーする範囲だが、緩和ケアのスキル育成などの10本ぐらいの施策で進めていくのか、除痛率と心の声を含めた患者調査を医療現場にフィードバックすることを基軸するのか、優先順位付けを行ってはどうかと意見があった。

2. 各部会 平成26年度事業計画のための指標について

埴岡委員より、各部会の事業計画のフォーマットについて、従来のものを使用するのか、資料7の新しいフォーマットにするのか、決めてはどうかと提案があった。各部長から決を取ったところ、従来のフォーマットで必要に応じて資料7のテイストを加えることとなった。

3. がん診療連携拠点病院等の整備、新規指定推薦及び現況報告および地域がん診療病院とがん診療連携拠点病院とのグループ化について

増田委員より、拠点病院の指定要件で新たに、地域がん診療病院と特定領域拠点病院が加わること、地域がん診療病院は基本的に隣接する2次医療圏のがん診療拠点病院との連携を前提にグループとして指定されることが報告された。

協議会で検討することが指定されていることから、後日の協議会で提案することが報告された。

4. その他

井岡委員より、指標について既にあるデータ（地域がん登録、院内がん登録、現況報告）を精査して何らかの数値を出した方がいいと意見があった。

東委員より、既にあるデータは不完全なものはたくさんあるが、使うとデータは良くなっていくものなので、使っていくことは大事だと意見があった。

埴岡委員より、がん政策部会の年間カレンダーとして、どういうステップでやるのか。例えば3年で行うなら、1年目で指標を作り、2、3年目で出た数値を仮説を立てた上で精査してもらい、提言してはどうかと意見があった。

増田委員より、がん政策部会より、指標の評価、政策提言、予算について、協議会で提案して頂きたいと意見があった。